

トップスとボトムスの丈及び色彩が調和感に及ぼす影響

A21AB029 大塚 美彩稀

1. はじめに

現在、ファッションの多様化が進んでおり、様々なデザインの衣服が出回っている。中でも、コーディネートにおいては丈のバランスが重要となるといえる。昨年度、石原研の研究において「トップスの丈」に着目し、ボトムスは同型のパンツで、トップス丈を変え、その面積比について研究を進めた結果、丈の違いによってイメージや調和度に差異が認められた。そこで本研究では、トップス丈だけでなくボトムスの丈やデザインにも着目し、トップス丈とボトムス丈の両方を変化させた研究を進めることとした。これらの要因の解明は、今後の衣服の選択や、デザイン及び企画、提供に貢献すると考える。

2. 方法

2-1 実験用シャツの制作

先行研究と同様にトップスはエステルポプリン（ポリエステル100%）を使用した。トップス丈はウエスト丈、ウエスト丈+20cmとした。実験用ボトムスはウールジョーゼットを用いてタイトスカートとフレアスカートの2種類を制作した。丈はそれぞれ40cmと80cmの計4種類とした。図1に示したようにシャツとボトムスを組み合わせ、計8種類の着用画像を実験に用いることとした。



図1 実験用シャツ着用画像

2-2 実験用試料の作成

上記8種の画像をもとに、色彩シミュレーションソフト「4D-boxPLANS4」（株トヨシマビジネスシステム）を用いて、白、黒、明るい青、明るい赤の計4色に色彩変換を行った。

グレー背景とした96種類の試料を作成した（図2）。

W丈、W丈+20cm×ショートタイト



w丈、W丈+20cm×ロングタイト



W丈、W丈+20cm×ショートフレア



W丈、W丈+20cm×ロングフレア



図2 実験用試料

2-3 実験方法

実験は、上記試料をランダムに提示し、女子大学生60名を被験者としてSD法による5段階評価の官能検査を実施した。評価項目には、「重い-軽い」「好きな-嫌いな」「丈が調和している-調和していない」「大人っぽい-子どもっぽい」という着装イメージに関する4形容詞対を用いた。

得られた評価から平均官能量を算出するとともに、数量化I類にて関与する要因について検討した。

3. 結果および考察

3-1 平均官能量

官能検査結果をもとに、4形容詞対における平均官能量を算出した（図3）。スカートデザインのタイト、フレアによる差はほとんど見られないが、トップスの丈がショート丈においてはタイトスカートの方が「好きな」「調和している」「大人っぽい」と評価されている。また、スカート丈は短い丈よりも長い丈のほうが好まれ調和していると感じさせ、大人っぽい印象を与えることがわかった。また、「重い・軽い」についてはスカート丈による差異は見られなかった。

さらに、トップス丈においては同じ色の組み合わせであっても短い丈の方が好まれ調和していると印象を与える。トップス色とスカート色は、どちらも白、黒が好まれやすいと分かる。また、明るい赤と明るい青の組み合わせはトップス色、スカート色ともに好まれにくい結果となった。また、スカートの色彩が明るい赤や明るい青であると評価が低下することから有彩色を用いる場合、明るい色はトップスに取り入れる方が好まれるということが判明した。「好きな」と評価された上位5つの試料と「調和している」と評価された上位5つの試料が全て一致した。また、「嫌いな」と評価された上位2つの試料と「調和していない」と評価された上位2つの試料も一致したことから、この2つの形容詞対は大きな関連があるといえる。「重い・軽い」は4形容詞対のなかで最もスカートデザインによる差異は見られなかったが、色彩による影響が見られた。

3-2 数量化I類による要因の分析

着装イメージに關与する要因について、スカートデザインの、スカート丈、スカート色、トップス丈、トップス色を説明変数、平均官能量を従属変数として数量化I類により分析を行った結果を表1に示した。

偏相関係数から、「重い-軽い」「好きな-嫌いな」にはスカート色とトップス色が大きく影響している。「調和している-していない」ではトップス丈とデザイン、「大人っぽい-子どもっぽい」ではスカート色とスカート丈が大きく影響している。

各色のカテゴリ数量から、白、黒はスカート、トップスともに大人っぽい、調和している、好きなに影響し、明るい赤、明るい青はスカート、トップスともに軽い、子どもっぽい、嫌いなに影響しているといえる。また、トップスは長い丈よりも短い丈のほうが好きな、調和しているに影響することが判明した。

4. 終わりに

本研究では、トップスとボトムスの丈及び色彩が着装イメージに及ぼす影響について、検討した結果、イメージや調和度に差異が見られることが判明した。全体を通して、視覚評価ではスカートデザインによる差はなく、トップス丈とスカート丈、色彩による影響が大きいとわかった。イメージに關与する要因では、最も影響を与えているのは色であるが、丈についても各イメージに關与しており、重要性が認識される結果となった。本研究が、今後の衣服の選択において貢献できれば幸いである。

5. 参考文献

- 1) 内山生, 熨斗秀夫, 石井寛, 福川正樹: 『スカート丈の経年変化に關する調査と解析』 繊維機械学会誌 34(2), 1981
- 2) 石原久代, 原田妙子, 早坂美代子: 『下肢形状とスカート丈との關係 1 -タイトスカート』 繊維製品消費科学 30 (7), 1989
- 3) 木村穂乃果『トップスとボトムスの面積比が着装イメージに及ぼす影響』, 2023

表1 数量化I類

アイテム	カテゴリ	重い-軽い		好きな-嫌いな		調和している-していない		大人っぽい-子どもっぽい	
		カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数	カテゴリ数量	偏相関係数
デザイン	タイト	0.031	0.142	-0.219	0.704	-0.233	0.745	0.110	0.506
	フレア	-0.031		0.219		0.233		-0.110	
スカート丈	短	-0.109	0.446	-0.020	0.088	-0.008	0.039	-0.509	0.938
	長	0.109		0.020		0.008		0.509	
スカート色	白	-0.580	0.919	0.518	0.892	0.224	0.678	0.137	0.917
	黒	0.867		0.346		0.174		0.672	
	明るい青	-0.002		-0.639		-0.247		-0.546	
	明るい赤	-0.286		-0.224		-0.151		-0.263	
トップス丈	短	-0.048	0.215	0.223	0.711	0.538	0.933	0.072	0.360
	長	0.048		-0.223		-0.538		-0.072	
トップス色	白	-0.725	0.945	0.473	0.878	0.194	0.571	0.146	0.894
	黒	1.038		0.269		0.075		0.567	
	明るい青	0.093		-0.658		-0.218		-0.479	
	明るい赤	-0.405		-0.084		-0.052		-0.234	
定数項		3.055		2.903		3.270		3.084	
重相関係数		0.957		0.939		0.948		0.968	
重相関係数の二乗		0.915		0.882		0.900		0.937	

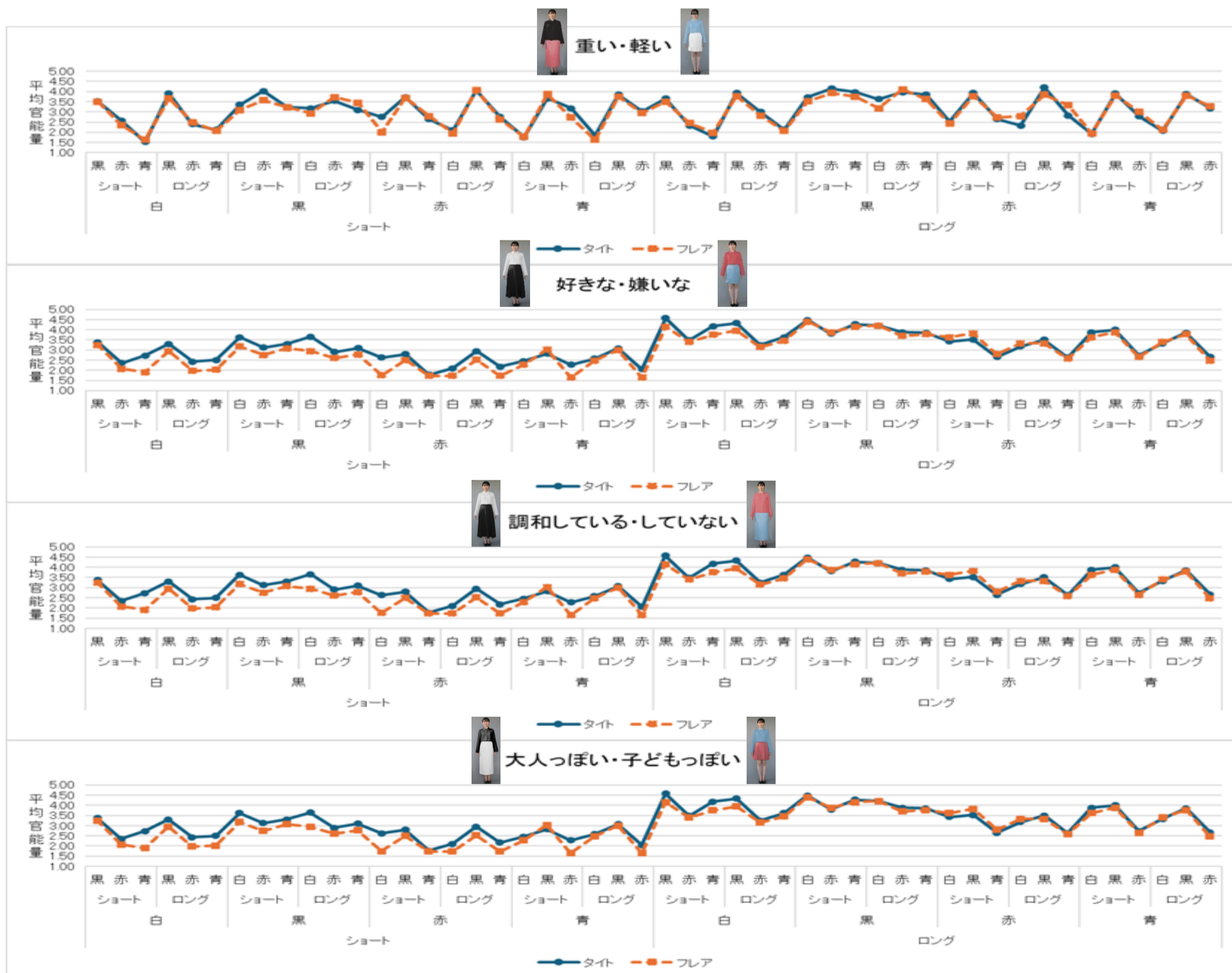


図3 平均官能量